

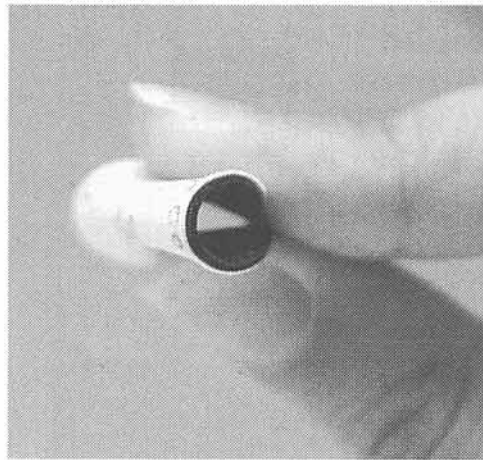
# デジタル産業 小さな巨人

ICタグ開発のKRDコーポレーション(神奈川県大和市)は金属チップをセラミックスやガラス繊維シートで覆った丈夫な製品を手掛ける。大手企業が用途開拓に苦戦するなか、デジ

タル機器の商品管理支援などで独自の顧客層を開拓し、存在感を示している。オフィスなどに設置されているカラーレーザープリンター。実は一部の機種の本体内にはKRDコーポ

## 衝撃に強いICタグ

### KRDコーポレーション



KRDコーポレーションのICタグは折り曲げても壊れない

#### 《会社概要》

- ▽設 立 1991年
- ▽本 社 神奈川県大和中  
央林間6-10-7
- ▽事業内容 ICタグの開発・  
販売
- ▽従業員数 11人
- ▽売上高 4億円  
(2009年4月期)

## 再利用型で独自用途開拓

レーションのセラミックス製ICタグが張り付けられている。

このICタグを採用して

いるのは2社3機種。同社はデータ読み取り装置と年間15万個のICタグをプリンターメーカーに供給して

「見える化」だ。ICタグには機種や製造日などの情報を書き込む。製品をサービス拠点に引き取った際、ICタグの情報

を読み取って壊れた個所などとともにデータベース化し、サービス網の強化や製品の改良などにつなげる。最終製品ではなく、製造工程の管理にも同社のICタグは活用されている。そ

品の本体を包むプラスチックパッケージの金型の管理だ。同社は衝撃に強いタイプの製品を供給。個別に管理番号を割り振ったICタグを金型に張り付けることで「金型の選り間違いが減り、金型の紛失も防げる」と小松弘英社長は効果を説明する。

小松社長はプリンターの紙送りなどに使うセラミックスクロウラーの成果をもとに1991年に起業。この技術を応用してセラミックス製のICタグを開発して2002年に市場へ投入、その後も衝撃を受けても壊れにくい製品などを拡充してきた。ICタグは日立製作所など大手が競って事業化しているが、物流など向けの使い捨て型の提案が主流で、コストが壁となっており、普及には至っていない。同社は丈夫で再利用可能な製品をいち早く投入することで、デジタル機器分野での用途を開拓してきた。このほど全国約2万3000カ所の測量用基準点に同社のICタグが埋め込まれることも決まった。経度や緯度などが記録され、道路や山野などの管理に活用される。「大岡(たいこう)検地以来のアナログ手法を脱し、デジタル検地の時代がやってくる」と小松社長は目を輝かせ、新たに広がる市場に思いをはせている。(川俊成)